

報道各社御中 ← 環境省広報室

(お知らせ)

兵庫県加東市における高病原性鳥インフルエンザウイルス・強毒タイプの
確認に伴う環境省の対応について

今般、兵庫県加東市の状ヶ池公園で回収されたコブハクチョウ（加東市飼育）から、高病原性鳥インフルエンザウイルス・強毒タイプが確認されたとの報告が兵庫県からありました。

環境省としては、現地周辺 10km 圏内の警戒レベルを3に引き上げるとともに、関係府省や兵庫県等と連携・協力しつつ、周辺の野鳥について監視を強化して参ります。

鳥インフルエンザウイルスは、感染した鳥との濃密な接触等の特殊な場合を除いて、通常では人には感染しないと考えられています。日常生活においては、鳥の排泄物等に触れた後には手洗いとうがいをしていただければ、過度に心配する必要はありませんので、冷静な行動をお願いします。

本年度は、高病原性鳥インフルエンザウイルスが全国各地で検出されています。周辺地域のみならず国民の皆様におかれては、別添の「野鳥との接し方について」（http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/bird_flu/manual/20101204.pdf）に十分留意されるようお願いいたします。

※環境省はホームページで高病原性鳥インフルエンザに関する様々な情報を提供しています。（http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/bird_flu/）

1 主な経緯等

(1) コブハクチョウ（飼養鳥）の回収地
兵庫県加東市（状ヶ池公園）

(2) 経緯

- ・ コブハクチョウ 1 羽を回収(1 1 日)。兵庫県による遺伝子検査は陽性。
- ・ 本日、鳥取大学における確定検査において H5N1 亜型陽性・強毒タイプが判明。

2 今後の対応

- (1) 発生地周辺 10km 圏内の野鳥の警戒レベルを3に引き上げ、野鳥の監視を一層強化。
- (2) 発生地周辺における野鳥の感染状況を把握するための現地調査(糞便調査)を実施。
- (3) 全国の環境省出先機関、都道府県、野鳥関係団体等に対して、野鳥の監視及び野鳥との接し方について、再度周知。

【取材について】

○現場での取材は、ウイルスの拡散や感染を防ぐ観点から、厳に慎むようお願い
します。

平成23年2月16日（水）

自然環境局野生生物課鳥獣保護業務室

直 通：03-5521-8285

代 表：03-3581-3351

室 長：宮澤 俊輔（内線6470）

室長補佐：山本 麻衣（内線6471）

専 門 官：福嶋 貢史（内線6474）

担 当：千葉 康人（内線6473）



野鳥との接し方について

- 死亡した野鳥など野生動物は、素手で触らないでください。また、同じ場所でたくさんの野鳥などが死亡していたら、お近くの都道府県や市町村役場にご連絡ください。
- 日常生活において野鳥など野生動物の排泄物等に触れた後には、手洗いとうがいをしていたただければ、過度に心配する必要はありません。
- 野鳥の糞が靴の裏や車両に付くことにより、鳥インフルエンザウイルスが他の地域へ運ばれるおそれがありますので、野鳥に近づきすぎないようにしてください。特に、靴で糞を踏まないよう十分注意して、必要に応じて消毒を行ってください。
- 不必要に野鳥を追い立てたり、つかまえようとするのは避けてください。

鳥インフルエンザウイルスは、野鳥観察など通常の接し方では、ヒトに感染しないと考えられています
正しい情報に基づいた、冷静な行動をお願いいたします

報道各社御中 ← 環境省広報室

(速報)

徳島県、大分県及び宮崎県における高病原性鳥インフルエンザウイルス・強毒タイプの確認に伴う環境省の対応について

本日、徳島県、大分県及び宮崎県において回収された野鳥から、高病原性鳥インフルエンザウイルス・強毒タイプが確認されたとの報告が鳥取大学からありました。

環境省としては、現地周辺 10km 圏内の警戒レベルを3に引き上げるとともに、関係府省や都道府県等と連携・協力しつつ、周辺の野鳥について監視を強化して参ります。

鳥インフルエンザウイルスは、感染した鳥との濃密な接触等の特殊な場合を除いて、通常では人には感染しないと考えられています。日常生活においては、鳥の排泄物等に触れた後には手洗いとうがいをしていただければ、過度に心配する必要はありませんので、冷静な行動をお願いします。

本年度は、高病原性鳥インフルエンザウイルスが全国各地で検出されています。周辺地域のみならず国民の皆様におかれては、別添の「野鳥との接し方について」(http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/bird_flu/manual/20101204.pdf) に十分留意されるようお願いします。

※環境省はホームページで高病原性鳥インフルエンザに関する様々な情報を提供しています。 (http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/bird_flu/)

1 主な経緯等

<徳島県>

(1) フクロウの回収地

徳島県那賀郡那賀町

(2) 経緯

- ・ フクロウ 1 羽を回収 (8日)。簡易検査陽性。
- ・ 本日、鳥取大学における確定検査において H5 亜型陽性・強毒タイプが判明。

<大分県>

(1) オシドリの回収地

大分県中津市耶馬溪町

(2) 経緯

- ・ オシドリ 3羽を回収 (7日に1羽、8日に2羽)。簡易検査陰性。大分県による遺伝子検査は陽性。
- ・ 本日、鳥取大学における確定検査において H5N1 亜型陽性・強毒タイプが判明。



<宮崎県>

(1) カイツブリの回収地

宮崎県諸塚村

(2) 経緯

- ・ カイツブリ 1 羽を回収 (8日)。簡易検査陽性。
- ・ 本日、鳥取大学における確定検査において H5N1 亜型陽性・強毒タイプが判明。

2 今後の対応

- (1) 発生地周辺 10km 圏内の野鳥の警戒レベルを 3 に引き上げ、野鳥の監視を一層強化。
- (2) 発生地周辺における野鳥の感染状況を把握するための現地調査(糞便調査)を予定。
- (3) 全国の環境省出先機関、都道府県、野鳥関係団体等に対して、野鳥の監視及び野鳥との接し方について、再度周知。

【取材について】

○現場での取材は、ウイルスの拡散や感染を防ぐ観点から、厳に慎むようお願いします。

平成23年2月17日(木)

自然環境局野生生物課鳥獣保護業務室

直 通：03-5521-8285

代 表：03-3581-3351

室 長：宮澤 俊輔 (内線6470)

室長補佐：山本 麻衣 (内線6471)

専 門 官：福嶋 貢史 (内線6474)

担 当：千葉 康人 (内線6473)

野鳥との接し方について

- 死亡した野鳥など野生動物は、素手で触らないでください。また、同じ場所でたくさんの野鳥などが死亡していたら、お近くの都道府県や市町村役場にご連絡ください。
- 日常生活において野鳥など野生動物の排泄物等に触れた後には、手洗いとうがいをしていたただければ、過度に心配する必要はありません。
- 野鳥の糞が靴の裏や車両に付くことにより、鳥インフルエンザウイルスが他の地域へ運ばれるおそれがありますので、野鳥に近づきすぎないようにしてください。特に、靴で糞を踏まないよう十分注意して、必要に応じて消毒を行ってください。
- 不必要に野鳥を追い立てたり、つかまえようとするのは避けてください。

鳥インフルエンザウイルスは、野鳥観察など通常の接し方では、ヒトに感染しないと考えられています
正しい情報に基づいた、冷静な行動をお願いいたします